



町民文芸

只見短歌会 五月詠草

外国に出張中の長の子より母の日にと小包届く
古川 英子

前山の櫛の若葉の萌え初め待ちあし我は馬鈴薯植ゑる
馬場 八智

入所前母が日毎に頼りあし昇降座椅子空きて久しき
新国 由紀子

児童数五十余名の運動会晴れて新緑共に輝やく
関谷 登美子

常に持つ健康保険証忘れしを出先に気付き不安がよぎる
目黒 富子

初給料と五人の孫が贈りくれ五色の牡丹の苗木を求む
渡部 ゆき子

光る葉と紅き花とを浮き出し朝日さす庭雪椿立つ
小倉 キミ子

苗箱を洗ふ畔の草の中薄紫のすみれ群れ咲く
渡部 ヨリ子

入院のわれの食事に来る娘ばたばた早き足音でわかる
新国 洋子

(出詠順)

只見俳句会 六月例会

目黒十一 指導

雨燕一気に雲を断って去る
路の葉で汲む山清水石の径
さちを

雀の子これぞスズメノカタビラぞ
楓の芽揺れ雨音の増さりけり
礼

水芭蕉すれ違う人皆笑顔
残雪に屍もちついて空の青
信

トマト植え田植えも終りお早苗饗
川土堤のニセアカシアの香を受けて
穂

種いもの頭すっぱり切り落す
バス停にバスは止まらず梨の花
都

夏来たるカツ定食や村旅行
夏帽子話題次々村旅行
修一

桜まじほつと息つく旅の宿
小満やひねもす唸る耕運機
味代子

涼しさや古びしままのさざえ堂
夕鴉なぜに鳴くかと仰ぐ空
敦子

薫風や木洩れ日ゆらし蘆花の詩碑
皴の手をピンクに染めて梅漬ける
弘子

盤切の産湯を散らし初夏の朝
若葉風さやか返納車椅子
吉見

